

# 「発進！ 発信！ 世界に向けて ～平和な世の中を私たちの手で～」

熊本県熊本市立泉ヶ丘小学校 研究代表者 山本 英史先生  
TEL 096-369-2007 FAX 096-331-1541

## 1. 研究のねらい

本校の取り組みは、修学旅行を中心として総合的な学習の時間「いずみっこタイム」で取り組んだ。第6学年で取り組む「平和学習」の单元の中でユニセフについての学習を入れることに以下のようなポイントを押さえるようにした。

まず第1は、ユニセフの活動を学ぶことで平和について深く考えるようにした。戦争のない世の中だけが「平和」ではなく、みんなが安心して暮らすことができる世の中こそが「平和」であるということを理解させたい。次に世界の国々の様子をしっかり理解させたい。先進国や開発途上国などの国や文化、宗教など様々な考え方があることがわかり、それをお互いに認める大切さを伝えたい。3つ目は、ユニセフの活動を進めていく上で、同じ子どもたちのために役立つ活動であることを理解させたい。同じ年齢の子どもたちのために役立つということで、意欲的に活動させる手立てとしたい。4つ目は、募金活動を通して学校の全児童にユニセフの活動を知らせたい。自分たちの出す募金がどのようなことに使われているかということを知らせることでユニセフの活動を理解させたいと考える。最後に学ぶことの大切さを実感させたい。学習を進めていくと「学校で友だちに会いたい。」「夢をかなえるために学校へ行きたい。」という子どもたちをビデオで見ることが出来る。いじめや差別のない平和な世の中にするためにも、本当のことを科学的に理解する力をつけることの大切さを指導していきたい。

## 2. 活動計画 (活動の流れ)

学習過程	学 習 活 動	ユニセフについての学習
であ つ 6 h 夏 休 み	1 世界の様子を知ろう ・本やインターネットを利用して世界の様子を調べよう (民族、言語、食事、服装、文化など) 2 戦争について考えよう ・ニュースや新聞から戦争に関する話題や記事を探し集めておこう。 ・集めた切り抜きやニュースなどから詳しく知りたいことを見つける (原子爆弾、平和祈念像、核兵器、終戦記念日) ・みんなが調べたことを読み合い、深める	○ユニセフについて調べる (ホームページ閲覧) ○ユニセフのビデオを視聴する (第二次世界大戦後日本もユニセフの支援を受けたことを知る)
す す む 19 h	3 修学旅行へ向けて ・実行委員会作り (一人一役で修学旅行実行委員の仕事をしよう) ・平和集会をしよう 4 修学旅行のまとめ ・修学旅行で学んだことを全校児童に発表しよう	○ユニセフの活動についての学習① 2時間 熊本県支部の方から教えていただく (ユニセフの歴史、活動内容など) ○ユニセフの活動についての学習② 2時間 熊本県支部の方から教えていただく (エネルギー、食料、教育問題など)
い か す 10 h	5 平和な世界へ ・平和な世の中について考えよう ・戦争と平和について 6 学校みんなに知らせよう ・ユニセフについての学習で学んだことを全学級へ知らせよう ・グループを作り1年生～5年生へプレゼンテーションしよう 7 校内募金活動に向けて ・ボランティアでポスターやチラシを作ろう ・校内放送で募金を呼びかけよう ・学習のまとめをしよう	○ユニセフの活動についての学習③ 2時間 ワークショップ 「新しい惑星への旅」

### 3. 実践

#### ユニセフの活動について学ぶ

長崎への修学旅行で、第二次世界大戦や原子爆弾の投下によってたくさんの人々が被害を受けたこと知り、戦争の悲惨さや平和の大切さを学んだ。そして、今の世の中が「平和」であるかということについて考え、課題を探し学習を進めていった。

調べていく中でニュースや新聞などから、現在戦争はしていないが犯罪、事故、災害などの恐怖から安心して生活することができないという状況におかれている人たちのことに気づくことができた。さらにその被害を受ける人の多くは自分たちと同じ子どもであることに気づくことができた。

社会的に弱い立場におかれる子どもや女性が、安心して生活できる世の中こそが「平和」な世の中であるという考え方を持つことができた。その平和な世の中にするために同じ子どもである自分たちにできることを探し、実践していくということへ学習は進んでいった。

まず、はじめに子どもたちが取り組んだことは、「ユニセフの活動について知る」ということであった。毎年校内で取り組んでいるユニセフ募金活動で多くの子どもが「ユニセフ」という言葉は知っているものの、詳しい活動内容については理解しておらず、自分たちの出すお金の使われ方について学ぶことから始めた。

#### ①ユニセフ活動について知ろう

調べ学習で一人ひとりユニセフについて調べた後、日本ユニセフ協会熊本県支部の協力を得て、3回の学習会を行った。

1回目、2回目は、ユニセフの歴史、活動内容、世界の食料問題、エネルギー問題、教育問題とユニセフの活動がどのように関わっているか、保健、衛生と水の大切さ、募金の使われ方について学んだ。3回目は、ワークショップ形式の学習で、自分たちの生活に最低限必要なものは何かを考えることを通して水、食料、トイレなどの大切さを知ることができた。世界には、この最低限必要なものでさえ手に入ることができない人たちがいることを知り、自分たちにできることを探していくことにつなげることができた。

少年が濁った水を飲んでいる写真を見ることから学習をはじめた。何をしているところか。どこなのか。なぜこんな水を飲まなければならないのか。ということを考えることで、自分たちの生活との違い、生活に必要なものがそろっていないところで生活している子どもたちがいることに気づくことができた。



〈この写真から学習を始める〉



〈ワークショップの様子〉

## ②校内募金活動への取り組み

本校では、毎年1月から2月にかけて、校内でユニセフ募金活動を行っている。この募金活動は、児童会にあたる計画委員会が中心となり行っている。

代表委員会で全校児童へ提案し、3日～4日間の期間を決めて募金を行うという活動である。募金をする前には、校内放送や全校集会でユニセフの活動を紹介したビデオを視聴し、世界の子どもの様子を知り、自分たちの出すお金の使われ方等について学習して募金を行うようにしていた。しかし、1年生から6年生までの異なった年齢の子どもたちにユニセフのことを説明するのは大変難しいことが課題として挙げられていた。視聴後は各学級の担任が補足説明を行うようにしていた。

本年度は、募金活動の前に行っていた全校児童へのユニセフの紹介を子どもたちの学習した成果を発表する場にした。6年生の児童がグループを作り、1年生から5年生までの全学級へ行き、ユニセフの活動についての説明と校内募金活動の呼びかけを行うということにした。低学年の児童には、低学年にわかるように絵や写真をたくさん使ったやさしい内容で説明すること。高学年にはクイズや劇などで興味をひき関心を持ってもらうことなどが工夫として行われ、前年度までの課題を解決する手だてとなった。



〈各学年に合わせた発表〉



〈校内募金活動〉

## 4. 成果と課題

今回の取り組みを通して3つの成果が得られた。まず1つ目は、ユニセフの学習を通して「平和」の捉え方が変わったということである。修学旅行の学習で「戦争のない世の中にしたい。」という感想を持つ子どもが多かった。今日本は戦争をしていない。戦争をしていないので平和であるという考え方から、子どもたちの毎日の生活と平和の大切さを結びつけることが困難であった。

安心して毎日の生活が送れることが「平和」な世の中であるという考え方に変わってきたことで、現在世界で起きている出来事に関心を強めることができたように思う。

2つ目は、異なった学年に発表することで、聞き手（相手）を意識した発表を準備することができた。各学年の発達段階に応じた内容を準備することで、何度もリハーサルを行い、内容を修正していった。発表時間の15分という限られた時間を有効に使うために道具や絵・図を精選しながら準備する中で、発表する力を高めることができた。

最後は、ユニセフについての理解が深まったことがあげられる。なぜ、ユニセフの活動を学び実践しているかという理由を明確にして活動を進めてきたことで、同じ子どもとして自分の役割を考えることができた。

校内募金活動は本年度で4回目を迎える。この4年間でユニセフの活動の理解を深めた子どもたちが増えてきたと実感する。さらに取り組みを継続することでユニセフ活動から世界を見て自分にできることを実践することのできる子どもの育成にあたりたい。

